

「ロシア極東経済の構造変化～2001年の実態(前編)」

富山県貿易・投資アドバイザー 白鳥 正明

この論評は、ウラジオストクの『ソロトイ・ログ』新聞社発行の月刊誌『ダリネバスト - チヌイ・カピタル』、2002年3月号に掲載されたE. ガルーシコとI. ドロブイシェワの共同記事「十字路口に立つ地域：集団化か単独行動か」の要訳・紹介であり、本号と次号に2回分割して掲載する。

1. ロシア国内市場から隔離された極東の原料

極東は特殊な地域である。ソ連時代には鉄道運賃の補償で価格上昇が抑制されていたが、市場経済化で電力料金、鉄道運賃、賃金が上昇し、極東の原料価格は高くなり、ロシア国内市場とCIS市場で競争力を失った。ソ連時代の極東経済は原料採取に重点が置かれていたが、原料は輸送費のかかる商品である。市場経済化で、鉄道運賃指数は1995年に前年比1.7倍に、98年には167.7に、99年には238.0に、2000年には119.6と上昇を続けたため、原料価格は高騰し、極東の原料は競争力を失いロシア国内市場から隔離されてしまった。

2. 極東地域の経済構造(2001年)

極東地域10地方・州・管区の経済構造

2001年現在、地域総生産(GRP)では沿海地方とハバロフスク地方が極東の約半分、産業生産では沿海地方、ハバロフスク地方、サハ共和国が70%を占め、設備投資はサハ共和国(23.4%)、ハバロ

フスク地方(20%)、サハリン州(17.5%)に、外国直接投資はサハリン州(44.5%)とサハ共和国(25.4%)に集中し、農業生産ではアムール州(25.1%)、沿海地方(21.0%)、サハ共和国(20.3%)が66%を占めている。【表-1】

各地方・州内の産業部門(非農業)別比重

沿海地方では電力(25.7%)、漁業(28.0%)、機械工業(9.6%)が63%を占め、ハバロフスク地方では機械工業(47.3%)、木材工業(10.1%)、電力(9.3%)が67%を占めている。アムール州は電力(32.3%)と非鉄金属(23.4%)、サハリン州は燃料(56.2%)と漁業(26.7%)、カムチャッカ州は漁業(58.1%)と電力(21.2%)、ユダヤ人自治州は建設資材(27.9%)と機械工業(20%)が主要産業である。サハ共和国(75.8%)、チュコト自治管区(57.7%)、マガダン州(55.8%)は非鉄金属の比重が高い。チュコト自治管区は、極東唯一のペリビノ原子力発電所(出力48MW)があるため電力の比重(30%)が高い。【表-2】

【表-1】 2001年 極東地域の各地方・州別経済の比重(%)

	沿海地方	ハバロフスク地方	アムール州	カムチャッカ州	コリヤーク自治管区	マガダン州	サハリン州	サハ共和国	ユダヤ人自治州	チュコト自治管区
面積	2.7	12.7	5.8	7.6	4.9	7.4	1.4	49.9	0.6	11.9
GRP*	30.3	21.0	13.9	5.4	0.4	3.3	8.4	13.8	2.8	1.1
産業生産**	16.4	25.6	4.7	7.3	1.5	4.0	11.6	28.9	0.5	1.0
消費財生産	39.1	14.4	2.4	19.7	3.3	3.0	14.2	5.9	0.7	0.3
農業生産	21.0	15.4	25.1	4.6	0.2	1.1	8.5	20.3	3.9	0.1
畜産業										
食肉	19.6	18.7	25.6	3.0	0.3	0.6	3.1	24.6	4.1	0.7
乳製品	20.6	12.4	28.2	2.2	0.1	0.7	5.7	25.6	4.6	0.0
鶏卵	21.7	29.4	20.7	6.3	0.1	0.7	9.5	9.9	1.7	0.0
外国投資	***13.9	2.3	0.0	9.4	0.6	4.5	44.5	25.4	0.0	0.0
設備投資	11.5	20.0	18.3	5.0	0.1	2.6	17.5	23.4	0.3	1.4
外国貿易										
商品	24.2	31.9	1.5	7.9	0.4	1.9	13.0	19.4	0.2	0.0
サービス	67.2	9.0	0.7	11.5	0.3	2.2	3.8	5.6	0.0	0.0

【出所】「十字路口に立つ地域：集団化か単独行動か」、『ダリネバスト - チヌイ・カピタル』、2002年3月号

【註】 *GRPは地域内総生産を示す。 **産業生産は非農業生産を示し漁業を含む。 ***外国投資は2001年1～9月間実績による。

【表 - 2】 2001年 極東地域・各地方・州内の産業部門別比重（％）

	電 力	燃 料	非鉄金属	林業・木材	建設資材	機械工業	漁 業
沿海地方	25.7	3.2	3.8	7.2	2.4	9.6	28.0
ハバロフスク地方	9.3	6.8	9.0	10.1	1.2	47.3	4.4
アム・ル州	32.3	6.3	23.4	7.9	4.7	5.6	-
カムチャッカ州	21.2	0.3	8.2	0.6	0.8	4.3	58.1
コリヤーク自治管区	5.7	0.9	38.6	0.2	-	-	54.1
マガダン州	19.2	1.0	55.8	0.2	0.9	2.0	15.3
サハリン州	7.6	56.2	0.2	2.6	0.8	1.1	26.7
サハ共和国	7.2	9.6	75.8	0.2	0.9	0.3	0.0
ユダヤ人自治州	17.6	0.8	2.5	8.7	27.9	20.0	-
チュコト自治管区	30.0	6.4	57.7	-	-	-	2.8

【出所】【表 - 1】と同じ。

3. 極東地域の市場構造変化

市場経済化が開始される直前の1990年、極東地域生産物の75％がロシア・CIS市場に、6％が輸出に、19％が極東地域内に向けられていた。10年後の2000年には、極東地域内の需要が75％、輸出が15％になり、ロシア・CIS市場向けはわずかに10％になった。極東地域内の需要は相対的には増加したが、地域内市場は狭く、また過去10年間に極東各地方・州の経済発展水準の格差が1.8倍に拡大したため、極東地域内の需要はかなり減少した。ソ連時代には、ある地方・州の生産物が他の地方・州に行政的に配分され、各地方・州の経済統合は生産物が相互に浸透することと理解されていた。市場経済になると、原料価格の高騰で多くの生産部門の原料需給関係が合理的でなくなり、地方・州の経済統合も再考されることになった。また、各地方・州間の物流構造を見るには、統計が不完全で物流の追跡は困難であり、大企業も中小企業も誰が何処に商品を出荷したのかを捕捉できず、多くの行政機関も地方・州間の物流を把握していない。

4. ロシア極東各地方・州の市場構造

ハバロフスク地方

2000年のハバロフスク地方の外部取引は、移(輸)入が436億ルーブル、移(輸)出が406.2億ルーブルで、移(輸)入超過は29.8億ルーブルであった。移(輸)出額のうち、ロシア国内市場向けの89.7％に相当する70.74億ルーブルが極東・ザバイカル地域に向けられた。ハバロフスク地方の需要に対する移(輸)入の比率は、石油・天然ガスの100％、液化ガスの約60％、石炭の70％以上、穀物・砂糖・植物油のほとんど100％で、移(輸)入額の70％以上が燃料工

ネルギー原料であった。現在、ハバロフスク地方の経済はシベリア地域と極東地域の他地方・州との深い依存関係にあり、その比重は10年間に77.5％まで増加した。

沿海地方

2000年の沿海地方は、23億ルーブルを移(輸)出し、177億ルーブルを移(輸)入して、移(輸)入超過は154億ルーブルで、移(輸)出の30.4％、移(輸)入の45.5％が極東地域との取引で、ハバロフスク地方、カムチャッカ州、サハリン州、サハ共和国との取引が多かった。沿海地方外への出荷額の90.4％は生活消費財・食料品で、残りの9.6％が工業製品で、セメント生産量の37.5％、スレートの40.4％、木製鉄道枕木の57.8％、リノリウムの4.4％、壁紙の3.3％が地方外に移出(出荷)された。食料品・消費財移出(出荷)総額の36.4％が極東地域内に出荷され、その内訳は、砂糖(生産量の43.6％)、菓子、ソーセージ、乳製品、動物油、魚類製品、マーガリン、ミネラルウォーター、非アルコール飲料、ウオッカ製品等であった。

沿海地方への移(輸)入のうち、工業製品は71.8％、生活消費財・食料品が28.2％で、極東地域からは工業製品が78.5％、生活消費財・食料品が21.5％であった。極東地域からの移(輸)入品には、燃料・エネルギー(石炭、重油)、石油製品(ガソリン、アスファルト)、溶接棒、暖房用ラジエーター・コンバーター、屋根材、バッテリー、電話ケーブル、ディーゼル発電機、切削工作機械、圧延鋼材、木材、製材品、ブリキ、人口樹脂、プラスチック、化学繊維等があった。

サハリン州

サハリン州は極東地域の主要な燃料エネルギー供給源になり、2001年には燃料エネルギー部門が州内地域総生産（GRP）の56.2%（1990年は10.4%）を占めるにいたった。隣接地域には、燃料エネルギーの24%（石油の17.5%、ガスの51.2%、石炭の6.3%）が出荷された。主な供給先はハバロフスク地方、カムチャッカ州、チュコト自治管区である。サハリン州の第2の産業部門は漁業である。過去10年間にその比重は40.2%から26.7%に低下したが、極東地域全体の漁獲量の25.3%を占め、漁獲量の80%は地元で加工され、74%が国内市場に出荷されている。サハリン州は、ジャガイモ、野菜、水産物、ミネラル・ウォーター、非アルコール飲料を全量、乳製品の90%、ビールの40～45%を自給している。薬用野生植物の加工・製造部門もある。サハリン州はウオッカ・酒類、ソーセージ、菓子類で、他の極東地域、特に沿海地方と競争関係にある。2001年の主要食料品の移入比率は、食肉製品が88.1%、乳製品が56.8%、動物油が99.5%、穀粉が82%、脱穀類が100%であった。家具、衣類以外の非食料品は全量が移入されている。サハリン州から極東地域には、紙類・カートン紙等の木材加工製品が移出されているが、鉄鋼・非鉄金属製品、機械工業製品、建設資材等の工業製品は完全に移入に依存し、2000年には各種の工業製品がロシア連邦の40地域、主としてシベリアと極東地域から移入された。消費財も極東地域の他地方・州から移入されている。

カムチャッカ州

カムチャッカ州の経済構造は、産業の58.1%が漁業、21.1%が電力、8.2%が非鉄金属、4.3%が機械・金属加工業、4.2%が食品工業で、漁業と電力の比重が圧倒的である。食用魚類製品の約50%は外国に輸出され、12%以上が沿海地方、ハバロフスク地方、クラスノダール地方、アルタイ地方、モスクワ市、マガダン州、ノボシビルスク州、アストラハン州に移出されている。カムチャッカ州は、ジャガイモ、ニンジン、キャベツ、甜菜糖、魚類、鶏卵を完全自給している。その他の食料品と消費財はロシアの他地域と外国から移入されている。最近2～3年間に卸売市場構造が変化し、米国、韓国、ドイツ、フランス、オランダ、フィンランドから工業製品を輸入するモスクワ、

サンクト・ペテルブルグ、ウラジオストクのロシア大企業と外資合併企業との直接取引が形成され、また、ベラルーシからも繊維品、衣料品の輸入が増加している。

サハ共和国（ヤクーチア）

サハ共和国の移（輸）出は、ダイヤモンド（モスクワ市、サンクト・ペテルブルグ市、スモレンスク州向け）、石炭（沿海地方、ハバロフスク地方、アムール州向け）、石油、鋳（ノボシビルスク州向け）、アンチモン精鉱（モスクワ市、ノボシビルスク州向け）、電力（アムール州向け）、切削ダイヤモンド（モスクワ市向け）、金（リャザン州向け）、貴金属製品（モスクワ市、ノボシビルスク州、沿海地方向け）、林業産品（沿海地方向け）、鉄屑（沿海地方、ハバロフスク地方向け）、毛皮製品（モスクワ市、サンクト・ペテルブルグ市、イルクーツク州向け）である。

ユダヤ人自治州

ユダヤ人自治州の経済構造は、州内総生産（GRP）の62.8%がサービス業、37.2%が消費財と工業生産である。州内で製造されているセメントの85%は移（輸）出で、うち5%は外国向け輸出、残りはアムール州のプレア水力発電所建設用の他、マガダン州とカムチャッカ州に出荷され、少量が沿海地方とハバロフスク地方に出荷されている。変圧器製造ではユダヤ人自治州は極東で唯一の州で、極東地域、東・西シベリア地域、さらにロシアの他地域の需要にえている。また、変電所設備・装置も製造されている。

（株）ダリセリマシはキャタピラー付コンバインを製造して極東の農民に供給し、状況がよくなったときには3,500台も売れたが、極東地域の支払能力が低いので昨2001年は50台しか売れなかった。ユダヤ人自治州には、耐火材、建設資材の製造に利用される酸化マグネシウム石材のようなユニークな原料もある。ユダヤ人自治州のメリヤス・ニット製品も有名で、ハバロフスク地方、沿海地方、サハリン州、カムチャッカ州、マガダン州、サハ共和国、シベリアの一部に出荷され、また、全乳製品、菓子も移出されている。他方、移（輸）入品は、食肉・同製品の30%以上（アムール州と沿海地方経由の輸入）、鶏卵（アムール州、ノボシビルスク州、イルクーツク州）、植物油（イルクーツク州、沿海地方、ハバロフスク地方）、砂糖（ウスリースク市、

大部分はロシア西部から、穀粉・脱穀類、魚類製品、ワイン・ウオッカ、ビール等である。

マガダン州

マガダン州内総生産（GRP）は漁業と産金で構成されている。マガダン州、カムチャッカ州、チュコト自治管区は、経済統計や事業計画では極東地域に区分されているが、その大部分は燃料を含む**極北地域配送***が必要で自活不能な特殊地域である。この極北各地域では、2001年に未払債務が激増し、チュコト自治管区では68億ルーブルから86億ルーブルに、カムチャッカ州では160億ルーブルから202億ルーブルに増えた。極東地域で、未払債務を減らしたのは、沿海地方（272億ルーブルから269億ルーブル）とハバロフスク地方（86億ルーブルから79.6億ルーブル）だけであった。未払債務は、極東連邦管区の殆どすべての地域で2～3倍も増えて未収債権を超過しているため、商品流通の拡大にとって重大な障害になっており、まだ完全に市場化していない極東地域の市場経済移行を妨げている。

* 極北地域配送

1993年2月連邦法「極北地域で労働し居住する者に対する国家補償法」に基づいて、北極圏に属する地域の越冬用食糧・燃料の輸送・貯蔵費用を連邦政府が負担する制度である。極北地域にはロシア総人口の約8%が居住し、地域内の天然資源輸出外貨の半分が国庫に納付されているが、地方財政交付金の約20%が支出され、全ロシア失業者の25%が居住し、居住者の20%が年金受給者である。

5. 統合される商業取引

極東製品の全域流通

98年危機後に活発化した極東経済は、生産と流通の回復に成功し、輸入代替国産品で食料品市場の需要を充たした。今ではどの商店に行っても、沿海地方産ソーセージ、カムチャッカ州産「マルキンスカヤ」ミネラル・ウォーター、「ゼイ」社製菓子、「プリモルスキ・ソイ（沿海大豆）」植物油、「プリモルスキ・サハル（沿海製糖）」角砂糖、ハバロフスク「イグリスタヤ・ヴィナ」シャンパン、「ウスリースク・バリザン」薬用酒、「ダクトムズ」ヨーグルトのように、各地方・州の製品が極東全域で流通し販売されているのがよくわかる。

沿海地方の食料品移（輸）出入

しかし、極東の最も南にある沿海地方では食糧が自給されていない。沿海地方行政庁の資料によると、2000年の地元生産量に対する移（輸）入比率は、畜産物が1.22倍、農産物は1.23倍で、マカロニ、茶、砂糖などは地元生産量の12.9%まで低下したが、食肉・同製品の移（輸）入は地元産の40.7%、乳製品は35.9%、ジャガイモは1.5%、野菜は78.8%もあった。また、公式統計では移（輸）出が全くないのに、実際は食肉製品生産量の6%、乳製品の4.3%、ジャガイモと野菜の0.1%が移（輸）出され、植物油の移（輸）出は半減し、脱穀類は12.5%に、魚類缶詰は14%に減ったが、砂糖は18.7%から43.5%に激増した。

極東地域の物流範囲の拡大

物流拡大のもう一つの事例は、極東のアムール州の穀倉地帯である。ハバロフスク地方と沿海地方の高い需要が、アムール州の大豆生産を他の農産物全体の2倍に増加させ、自州での加工用以外の増産分がハバロフスク地方と沿海地方に出荷された。また、ユダヤ人自治州では、ハバロフスク地方の石油製品と沿海地方のカネを当てにした農業機械修理と付随サービスの提供が活発化した。最近数年間に「沿海製糖」や「沿海大豆」のような食品大企業の地域的な重要性が復活した。消費財製品の企業グループにとって過少人口と市場の狭さが長い間投資の障害になっていたが、最近はその事態が変化している。ハバロフスクの無線器具製造「アベスト」社と「株エウゴ」グループは、完全に競争力のある個人用無線電話、ラジオ、家電製品の製造・組立を開始し、極東全域、シベリアさらにモスクワにも販路を拡大している。沿海地方では、1998年にウスリースク市営工場「ロージナ（極東全域で有名な冷蔵庫「オケアン」の製造工場）を買収した「Vラゼール」社が冷蔵庫、テレビ、洗濯機の製造を開始した。極東地域の工業製品や食料品の生産構造は成行き任せで、地元の需要を充足することから始めているが、今後は隣接市場と地域内の製造業者との激しい競争になるだろう。

（続）